

# 集落営農を推進し、地域の農業振興へ

(五條市農業委員会)

担い手への  
農地利用の  
集積・集約  
化

遊休農地の  
発生防止・  
解消

## 1 地区の特徴・状況、課題

五條市は、古くより南和地域の要衝として発展した、奈良県の南部に位置する中山間地域です。歴史的には、南朝のゆかりの地となった西吉野町賀名生地区や明治維新の魁となった天誅組が義拳した本町地区、江戸期の風情を感じる街並みの新町地区など、市全体に歴史ロマンが満載です。地域の特色として、五條市北部（旧五條市）地域では水稻の栽培が盛んであり、五條市南部（旧西吉野村）では柿と梅の栽培を行っています。特に柿の栽培では生産量日本一を誇り、奈良県の柿の8割を五條市で生産しています。

近年、人口の減少や獣害、後継者不足に直面しており、担い手の減少・耕作放棄地の増加のなかで次世代の農業者に農業を引き継いでゆくことが難しくなっています。特に中山間地域では条件の悪い農地が多く、維持に多大な労力を要します。



## 2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

中山間地域特有の条件（個々の農地の面積が小さい、傾斜がきつい等）を克服するための活動  
農地中間管理機構を活用し、集落営農化を推進するとともに支援策を活用して地域の農地の圃場整備を進め、条件のよい農地を作り、次代の担い手を育成する。  
地域への農地中間管理機構の浸透を促進  
担当区域を設定し、農業委員と最適化推進委員がペアとなり集落営農の話し合いに積極的に参加

## 3 活動（取組と工夫）の結果

五條市

平成31年3月、丹原地区で集落営農組織「丹生の里」発足、参加農家数32軒 農地集積面積8ha  
令和6年2月頃に当該組織が法人化、また同年内で圃場整備完了予定。